

1 題材名 正しく聞いて、正しく伝えよう

2 題材について

本学級は、計8名が在籍する自閉症・情緒障害特別支援学級である。本学級に在籍児童の多くは「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」第7章 自立活動の内容の「2 心理の安定」や「3 人間関係の形成」に困難さを感じている。また、学習意欲に乏しく、興味のないことは持続しない傾向にある。正しく聞き取ることが苦手な上、注意が他にそれてしまったり、聞き取ったことを忘れてしまったりする。日常生活の中で、大事なことを聞き漏らさないで聞くことは大切なことなので、単語や短文を正しく聞き取る練習を4月から授業の中で取り入れてきた。

本時の学習では、1対1の個別指導ができる時間を活用し、本時の状況に合わせ、簡単な文章の内容を聞き取ったり、電話の取次ぎの場面を想定して練習したりすることにより、実生活においても役立つ指導をしたいと考える。また、発音に聞き取りにくいところがあるので、口形や舌の動きにも気を付けられるようにしたい。

3 児童の実態と個別目標

児童	題材における実態	題材における目標
A	・言われたことを自分に都合よく判断し、周囲とトラブルになってしまうことがある。	・適切な言い方で相手へ伝えることができる。【2-(1)】
B	・言われたことは素直に受け入れることができるが、時間がかかる。	・表情と身振り、言い方を合わせて相手へ伝えることができる。【2-(1)】
C	・言われたことは素直に受け入れることができるが、行動に移せないことがある。	・正確な表現で、相手へ伝えることができる。【3-(1)】

4 指導計画と評価(5時間取扱い)

時	学習内容・活動	主な評価		
		A	B	C
1	いろいろな気持ちを知らう	様々な場面で、相手の気持ちを想像することができる。	適切な言葉や行動について考えることができる。	相手の気持ちになって考えることができる。
2 (本時)	正しく聞いて、正しく伝えよう	話の内容を正しく聞き取ろうとする。メモの大切さを知り、相手に正しく伝えることができる。	場面の状況を理解することができる。	質問したことで、問題が解決することを理解することができる。
3	自分の気持ちを伝えよう	相手に気持ちが伝わるような表情や身振り、言い方を理解し、気持ちのよい会話をするすることができる。	大きな声を出したり、威嚇したりしないで、自分の気持ちを伝えることができる。	自分の気持ちを素直に伝えることができる。
4	怒りや不安な気持ちの対処法を考えよう	人には様々な考え方があることを知り、自分の考えと違っていても、受け入れることができる。	泣いたり、すねたりしないで、自分の気持ちを相手へ話すことができる。	自分の気持ちを素直に、振り返りをするすることができる。
5	気持ちの切り替え方を覚えよう	相手の考えや気持ちを考え、会話をするすることができる。	気持ちの整理の仕方を考えることができる。	クールダウンの仕方について考えることができる。

5 本時の指導

(1) 目標

ア 全体目標

- ・落ち着いて話の内容を正しく聞き取ろうとする。【2-(1)】
- ・メモの大切さを知り、相手に正しく伝えることができる。

イ 個別目標

- A 正しく伝えることができる。【2-(1)】
- B 用件を伝えることができる。【2-(1)】
- C 落ち着いて、正確に伝え、聞くことができる。【3-(1)】

(2) 準備・資料

- ・聞き取るための資料
- ・メモ用紙
- ・タブレット PC
- ・授業の流れを書いた短冊
- ・電話機
- ・ヒントカード

(3)展開

学習内容・活動	教師の指導・支援と評価 (◎評価)			
	全 体	A	B	C
1 始まりのあいさつをする。 2 本時の学習課題について確認する。 正しく聞いて、正しく伝えよう。 3 短い文章の内容を聞き取る。 (1) 教師の読む短作文を聞いて質問に答える。 ・ 1回目 メモをとらずに ・ 2回目 メモをとりながら ・ 5W1Hを意識して 4 電話の受け手になって聞きとる。 (1) 受けた電話の用件を聞き取る。 (2) 聞き取れなかったことを聞き返す。 「もう一度お願いします。」 (3) 用件を伝える。 (4) はっきり話す練習をする。	・ あいさつは学習のルールであることを理解できるようにし、休み時間からの切り替えを図る。授業に向けてあいさつできるようにする。 ・ 学習課題を板書し、教師と一緒に声に出して読むようにする。 ・ 本時の学習活動を書いた短冊を黒板に掲示し、授業の見通しがもてるようにする。 ・ 1～3文字程度の例文を教師が読む。読んだ内容について、後からいくつか質問することを知らせておく。1回目はメモの指示はしないでおく。 ・ 同じ例文をもう一度読む際に、メモをとることをすすめる。 ・ メモをとることの必要性を理解し、大事なことを落とさないように聞くように助言する。 ・ 電話を受け取るときのマナーが中心の学習ではないが、受け取る基本的な言葉は知らせておく。 ・ 口の形、舌の動きを意識できるようにするために、タブレットの画面を見ながら発音するようにする。	・ 個別に声掛けをして学習準備を促す。 ・ 注意や思考が途切れないよう、他児からの働きかけを意図的に設定する。 ・ 教師の手伝いなども取り入れ、集中が持続できるようにする。 ・ 友達の表情に気付いて行動できるように見守り、場面によっては助言する。 ・ 活動ごとに、良いところが見られた場合は、言葉掛けをしながら教師と一緒に称賛する。 ・ お互いの認め合いができるように、友達と頑張ったことを伝える場をもつ。 ・ 自己評価が低くならないよう、助言しながら意欲を高めていく。 ◎受けた電話の要件を正しく聞き取り、伝えることができる。(行動、観察) ◎電話の内容を自分なりに分かりやすく伝ええることができる。(行動、観察)	・ 状況を理解して、適切な言葉や行動に気付かせる。 ・ 活動の中で、自主的表現が難しい場合は選択肢から考えさせる。 ・ ふざけず真剣に考えられるように励ます。 ・ 落ち着いた態度で発表するよう、場の雰囲気を整える。 ◎話の内容を正しく聞き、用件を伝えることができる。(行動、観察) ・ 聞き取るのが難しいときは、ヒントカードを渡す。(見せる) ・ 自分の気持ちを伝えたり、友達と折り合いをつけたりできるように見守り、場面によっては助言する。 ◎メモをとりながら聞くことができる。(観察、メモ) ・ 自己評価が低くならないよう、助言しながら意欲を高めていく。 ・ 進んで活動できるよう、励まし合いながら声掛けをしていく。	・ 不十分な理解や不正確な言語表現があった場合は、修正する。 ・ 活動の中で、自主的表現が難しい場合は選択肢から考えさせる。 ・ 質問する良さを実感させながら活動の場を盛り上げていく。 ◎話の内容を落ち着いて正しく聞き取ろうとしている。(行動、観察) ・ 進んで取り組めるよう、励まし、声掛けをしていく。 ・ 自主的表現が難しい場合は選択肢から考えさせる。 ・ 自己評価が低くならないよう、助言しながら意欲を高めていく。 ◎メモをとりながら聞くことができる。(観察、メモ)

5 本時の振り返りをする。 ・ ICT、タブレット PC を活用して入力をする。 ・ 感想を発表する。 6 終わりのあいさつをする。 7 お楽しみスクラッチをする。	・ 「聞き取れた」「伝えることができた」という成就感がもてるような感想や「メモが大切」という気持ちを期待したい。児童から出ない場合は、本時の活動でできたことを教師側から称賛する。 ・ 自己の経験から次に取り上げたい例が見つかれば提案させたい。 ・ 授業の終わりを意識し、片付けができる。	・ 頑張ったことを個別に称賛する。	・ 頑張ったことを個別に称賛する。	・ お互いが認め合えるように、友達と頑張ったことを伝え合える場をもつ。 ・ 頑張ったことを個別に称賛する。 ・ 次時の授業につなげられるよう、声掛けをする。
--	---	---	---	--